

SeaBOS 対談



持続可能な水産業の未来をつくる

イニシアティブSeaBOSの使命と、水産業界のリーダーとしての抱負

世界の水産大手企業が参画する、海洋管理のためのグローバルなイニシアティブSeaBOS (Seafood Business for Ocean Stewardship)の始動から4年。科学者としてその発足を支え、自ら産業界との対話の場を創出してきたヘンリック・オスターブロム教授と、SeaBOS 初代会長を務めるマルハニチログループ代表取締役会長伊藤 滋による意見交換会を実施しました。新型コロナウイルスの感染拡大に伴ってオンラインでの開催とし、当日はSeaBOS取締役であるマーティン・エクセル氏がファシリテーターを務めました。

SeaBOS主要な課題とミッション

世界最大手の水産企業10社が、海洋のサステナビリティ(持続可能性)を実現するために指導力を発揮すべく努める

Vision

海洋管理に関する変革を促進する

How

政府やその他のサステナビリティの主導者との協力を含め、業界が海洋に対する世界的な責任を負い、海洋管理に積極的に携わる

Mission

持続可能な水産物の生産と健康な海洋環境の実現に向けて世界をリードする

SeaBOS 参画企業

マルハニチロ
日本水産
Thai Union Group
MOWI
Dongwon Industries
Nutreco
Cargill Aqua Nutrition
Cermaq
極洋
Charoen Pokphand Foods

世界の水産業をめぐる課題とSeaBOSの意義とは



ヘンリック・オスターブロム教授

ストックホルム大学地球環境科学部門
ストックホルム・レジリエンス・センター
サイエンス・ディレクター



マーティン・エクセル氏

SeaBOS取締役
オーストラル・フィッシャリーズ社
アドバイザー



伊藤 滋

マルハニチロ株式会社
代表取締役会長
SeaBOS会長

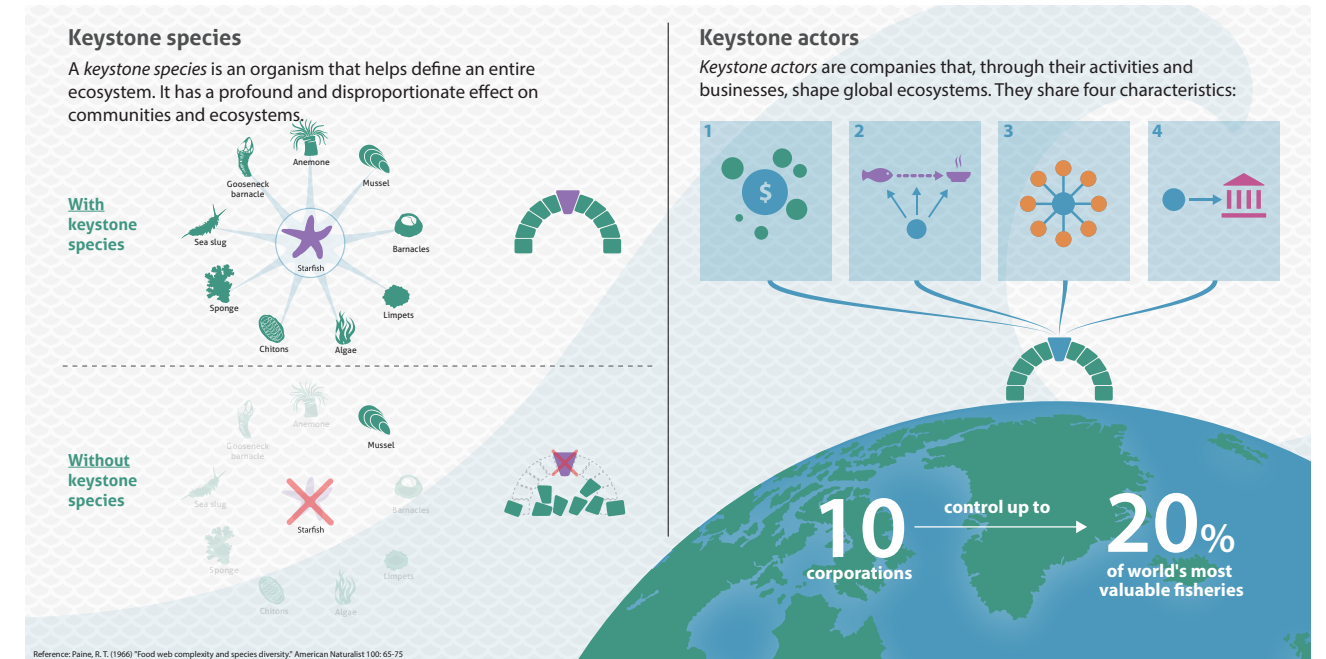
エクセル氏 今回は、大変すばらしい機会をいただきました。SeaBOSは、2013年に始まった持続可能な水産業についての科学者と企業の対話の場「キーストーン・ダイアログ」がもとになり発足した組織です。まずはその背景や、水産業界をめぐる課題への認識について伺えればと思います。

オスターブロム教授 水産業は、持続的で健康的なタンパク資源を供給するという大切な役割を世界で果たす一方、乱獲や海洋汚染、気候変動などの脅威に晒されてきました。私たち科学者としても、問題の調査と把握だけでなく、将来に向けた対策を検討し、より良い海の未来に働きかけていくことはもはや不可欠といえました。

「キーストーン」は生態学の言葉で、生態系においてはいくつかの特定の種が重要な役割を担っていることを意味するものですが、これはビジネスにも当てはめられます。現在、水産業界ではマルハニチロを筆頭に10社が世界全体の主要魚種取扱い高の20%を占めており、こうした大きな影響力を持つ企業を私たちは「キーストーン・アクター」としてとらえています。水産業界が直面する課題は一社だけでは到底解決できないもので、科学者とキーストーン・アクターとの協業が重要という考えのもと、企業との対話を重ねてきました。それを土台に2016年に本格スタートしたのがSeaBOSです。

伊藤 世界の水産業界は、IUU(違法・無報告・無規制)漁業や強制労働・児童労働などの人権問題、海洋プラス

生態学におけるキーストーン種とビジネスにおけるキーストーン・アクター



生態学における「キーストーン種」は、その種が属する生態系に大きな影響を及ぼす「要となる種」を意味し、その生態系で重要な役割を果たします。この概念を海洋管理に応用し、水産業界の「キーストーン種」である水産大手企業と科学者が、海洋のサステナビリティを実現すべく発足したのがSeaBOSです。

チックごみによる汚染問題などを抱えています。いずれも水産業の持続性に深刻な影響を与えうる重要なテーマです。

マルハニチロは、オスターブロム教授をはじめとする科学者の皆さまの呼びかけに応じ、第1回目のキーストーン・ダイアログから参画してきました(「SeaBOSのこれまでの取組み」についてはP.36図表参照)。科学的アプローチを有効に活用し、世界の大手水産事業者が手を取り

合って課題解決に取り組んでいくSeaBOSのアプローチは、大変意義があるものと考えています。

エクセル氏 SeaBOSでは、主要な課題に対し、それぞれ解決をめざす6つのタスクフォース^{※1}をつくって取り組んできましたね。

オスターブロム教授 タスクフォースは、SeaBOS参画企業が共同声明で掲げた10のコミットメント^{※2}を、実際に

SeaBOS 対談



行動に移していくために誕生した組織です。各タスクフォースが扱うのは、私たち科学者が長年取り組んできた課題であり、同時に企業もビジネスの中で重視してきたものです。実際の取り組みでは、私たちも科学的アセスメントにより活動を支えています。たとえば違法漁業への対応では、企業がリスクの地理的分布を把握できるよう、グローバルリスクマップをつくることなどです。優先順位をつけ、最も必要なところから効果的に取り組んでいくことが重要だと思っています。

※2 10のコミットメントについては以下をご覧ください
http://keystonedialogues.earth/wp-content/uploads/2017/07/Statement_jp.pdf

※1 SeaBOSタスクフォース



エクセル氏 伊藤会長は、タスクフォースの取組みをどのように感じていますか？

伊藤 水産業界には小規模な事業者も世界に数多く存在します。中には家族経営のようなところもあり、管理レベルもばらばらです。一方で、IUU 漁業や強制労働・児童労働、プラスチック汚染などの問題は、事業規模に関わらず業界全体に大きな影響を及ぼします。水産事業者が持続的に事業を営み、世界に水産物を提供し続けていくためには、水産業に関わるすべての関係者を巻き込んでいくことが重要だと考えています。

オスターブロム教授 まさに同感です。そうした課題は各事業者が個別に解決できるものではなく、協力し合うことが鍵となります。科学的な視点、グローバルな視点から話し合うことで見つかる打開策もあるはずです。SeaBOS 参加企業は現在、10のコミットメントの達成に向けて共に歩みを進めています。

伊藤 科学と事業を融合させていくSeaBOSの強みが、そうしたところに現れてくるのだと思います。一方で、SeaBOSの活動にあたって大きな難しさを感じるのがサプライチェーン全体での海洋資源の取扱い量や、人権・環境課題の実態の把握です。自社グループ内の事業活動に目を配

るのはそう難しいことはありませんが、マルハニチログループのような水産会社は世界各国からたくさんの魚種を輸入しています。買付も直接漁業者からではなく、現地の輸出業者を経由することが多く、供給ルートは複雑です。これらすべてで問題がないことを確認し、取引の透明性やトレーサビリティの向上に努めていくのは簡単ではありません。小規模事業者を含めた世界的な取組みとするためには、現状をしっかりと調査し、状況を把握した上で、できることから着実に進めていくしかないと思っています。

エクセル氏 事業規模を問わず、サプライチェーンすべてを巻き込み同じ方向性をめざしていくというのは、難しく

SeaBOSにおいてマルハニチログループが果たすリーダーシップ

エクセル氏 SeaBOSがグローバルな海洋管理を促進する今、新たなビジョンを創り、解決策を見い出して実践していくためには、伊藤会長がおっしゃったような大きなリーダーシップと勇気は本当に大切だと思います。オスターブロム教授は、世界最大の水産事業を営むマルハニチログループに、どのような期待を寄せられますか？

オスターブロム教授 日本では、人権・労働問題に寄せられる社会的要請が他国に比べると低いだけに、当初マルハニチログループを含む日本企業ではあまり対応が取られていなかったように思います。しかしSeaBOSがスタートして以来、伊藤会長のリーダーシップのもとでマルハニチログループに起きた変化はめざましいものがありました。何かを変革することは非常に時間と労力がかかる行程ですが、そこに果敢にチャレンジする姿勢を見せてくれました。SeaBOSに参加する他社もまた、その真剣さに多くを学んでいるように感じます。今日では、水産業界を超えてサステナビリティのグローバルリーダーとして存在感を示すマルハニチログループが、今後どのように活動を加速させていくのか、非常に期待しています。

伊藤 大変光栄に思います。自社グループの枠を超えて、サプライチェーン全体へとサステナビリティの取組みを広げていくのは決して容易ではありません。しかし、当社は漁業・養殖事業の両分野のトップ企業であり、その事業範囲は世界中に広がっていることを考えれば、積極的に

も価値のある挑戦だと思います。企業がSeaBOSに参加する意義とは何だと考えられますか？

伊藤 SeaBOSは、私たちが自社だけで解決できない課題に対し、科学者の皆さまからさまざまな情報をいただき、世界トップ企業の役員やサステナビリティ担当の方々とも議論を深める貴重な場となっています。また多様な問題の解決に向けて、世界に変革を促すリーダーの役割を果たすことを宣言しています。SeaBOSに参加するような大規模事業者のリーダーシップが、世界の海洋資源を維持・再生し、持続的な漁業を実現していく力になるものと考えています。

リーダーシップをとっていくべき立場にいるのだと強く認識しています。困難は多いですが、一歩ずつ着実に取り組んでいきたいと思っています(水産資源取扱い量の調査について(P.52)、人権を含むサプライヤー調査について(P.44))。

エクセル氏 もうひとつ伺いたいのが、海洋プラスチック汚染と気候変動についてです。従来この2つの課題への対応は水産業界では後回しにされがちでしたが、最近特に注目を集め、重要度を増しています。

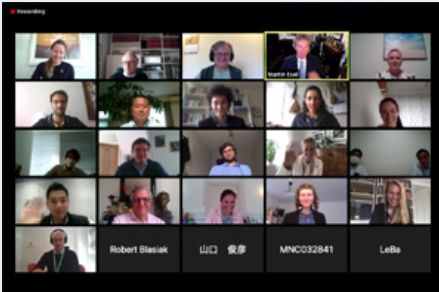
オスターブロム教授 海洋プラスチックの問題は近年ようやく調査が進み、社会的関心も高まってきています。また、目に見えない海面下で進行し、水産業の将来に大きな影響を及ぼそうとしているのが気候変動の問題です。根本にあるのは、私たちの生産の在り方やエネルギー利用、輸送システムであり、抜本的に対処していかない限り解決は望めません。企業自身の取組みはもちろん、政治・政策に働きかけて社会的な視点から変革を起こしていくことも必要です。

伊藤 プラスチック汚染は、全世界の多様な産業に関わる大きな問題です。プラスチック包装の削減なども大切ですが、SeaBOSとしてフォーカスすべきは水産業界に特有の漁網やロープ、ブイなどの漁具類だと考えます。これらのプラスチック製品への対応では2019年GGGI(Global Ghost Gear Initiative^{※3})への参加を表明しており、今後この分野において活動を具体化させていきます。

※3 GGGI: 海洋に流出した漁網やロープ、ブイ等の漁具類削減のためのマルチステークホルダーアライアンス

SeaBOS 対談

SeaBOSのこれまでの取り組み

2015	国連持続可能な開発サミットにて「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」が採択	6月 すべてのG20政府に違法漁業防止寄港国措置協定に参加するようにSeaBOSとノルウェーのソルバーク首相と共同記事を発表
2016	11月 第1回ソネバ・ダイアログ開催(モルディブ)	9月 第4回ブーケット・ダイアログ(タイ)
		
	ソネバ・ダイアログ	ブーケット・ダイアログ
2017	5月 第2回ストックホルム・ダイアログ開催(スウェーデン)、タスクフォースの立ち上げ	10月 SeaBOSとしてGGGIに参画
	6月 国連海洋会議にて共同宣言を発表	12月 SeaBOSとして正式に持続可能な海洋ビジネスのための国連グローバルコンパクトアクションプラットフォームのサポートを約束
	10月 タスクフォースが始動	
2018	3月 SeaBOSとしてGDSTに参画	2020 5月 スtockホルム・ダイアログ(オンライン)
	5月 アメルスフォールト・ダイアログ(オランダ)	
	9月 第3回軽井沢・ダイアログ(日本)	
		
	軽井沢・ダイアログ	ストックホルム・ダイアログ
2019	5月 ベルゲン・ダイアログ(ノルウェー)	10月 第5回アムステルダム・ダイアログ(オンライン)
		
	ベルゲン・ダイアログ	

気候変動もまた、水産業に大きな影響を与えている問題です。北大西洋のブルーホワイティング(タラの仲間)のように、温暖化の影響により安定的に漁獲できなくなった例もあります。水温の上昇により、天然魚の資源が減少してしまうかもしれませんし、現行の養殖場が魚の成長に



適さなくなるかもしれません。

他の食品産業と比べると、水産業は温室効果ガスの排出が少ない産業です。水産資源を適正に管理し、環境にやさしいタンパク源を世界に安定供給していくことが私たちの責任という認識のもと、活動を続けていくことが大切だと考えています。

エクセル氏 気候変動は、水産業界にも多大なる影響を与えています。その影響を減らす一助として他のタンパク質に代わり、より持続可能なタンパク源である魚介類を摂取するようSeaBOSとして推奨していくことは大事だと思います。海洋プラスチック問題については、メンバーとなっているGGGIのサポートを通じて、海洋に流出した漁網を回収するだけでなく、プラスチック類の流出防止またはリサイクルするための新しい対策を講じることができます。また、SeaBOS参画企業がグループ会社も含めて、毎年海岸や河川の清掃を行うことによってきれいな海の維持に繋がることを示していくことが大事だと思います。

水産資源の保全と持続的利用に向けた今後の取り組み

エクセル氏 最後に、SeaBOSの今後の活動と抱負について、お二人からそれぞれお聞かせください。

オスターブロム教授 今後は、海洋政策の強化に向けて、政府や公的機関を巻き込み、協力を要請していくことが欠かせないと思っています。近年では、個々の企業にもビジョンや戦略の策定、組織編成、情報公開などをめぐる変化が見られ、次のステップへと踏み出す時期を迎えているのだと大変期待しています。GDST(Global Dialogue on Seafood Traceability^{※4})やGGGIへの参画も、企業の取り組みを前進させてくれるでしょう。

SeaBOSは水産業界に限らず他の業界に対しても、グローバル課題に取り組む好事例となっており、科学者や政策立案者にも良い刺激を与えています。グローバルな協力体制のもと、今後も模範とされる存在として活動を続けていければ素晴らしいと思います。

伊藤 SeaBOSは、「科学者と事業者」「漁業企業と養殖企業」「アジアや欧米など世界中の企業」が参加するという、優れた特色を持つ世界初の組織です。これまでは各企業が独自に活動してきましたが、水産資源の保全と持続的利用

のためには、グローバルな組織で科学・産業の両面から取り組んでいくことが欠かせません。私自身は2020年10月にSeaBOS会長から退任しますが、今後も引き続き、マルハニチログループがリーダーシップをとっていかなければならないと考えます。SeaBOSに参加するすべてのメンバーと協力しながら、課題解決への取り組みを進めていく所存です。本日は誠にありがとうございました。

※4 GDST:水産物のトレーサビリティに関するグローバルダイアログ

